

曾爾村まち・ひと・しごと創生総合戦略

曾爾村地域イノベーション創生戦略

～新しい切り口での挑戦～

— 対象期間：平成 27（2015）～平成 31（2020）年 —

平成 27 年 12 月
曾爾村

○目 次

1	総合戦略の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	（1）策定の目的	
	（2）総合戦略の位置づけ	
	（3）計画期間	
	（4）戦略の構成と進行管理	
2	曾爾村の状況と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	5
3	曾爾村地域イノベーション創生戦略・・・・・・・・	8
	○体系図	
	○体系別施策	
	基本目標1 曾爾村イノベーション戦略・・・・・・・・	12
	施策1-1 農林業公社の設立	
	施策1-2 観光戦略と景観保全	
	施策1-3 人材誘致促進	
	施策1-4 特区制度の導入	
	施策1-5 住民等の憩いの場の創設	
	基本目標2 地域住民イノベーションへ向けた社会実験の実施・・・	17
	施策2-1 めだか学校	
	施策2-2 どぶろく学校	
	施策2-3 ゆず学校	
	施策2-4 エゴマ学校	
	施策2-5 コメ学校	
	施策2-6 名水学校	
	基本目標3 村民に対する起業支援・・・・・・・・	21
	施策3-1 村民に対する起業支援	
	施策3-2 村内で起業を希望する移住者の支援	

1 総合戦略の趣旨

(1) 策定の目的

曾爾村の将来人口の推計によると2040年に1000人を切り、2060年には300人程度の人口となることが予想されます。この数字はこのまま人口減少が続くと曾爾村がひとつの村として存立してゆくことがむずかしいことを示しています。また、国が発表した市町村別の創業率では全国でワースト第40位となっており、仕事の間、雇用の場がないことが人口減少に大きく影響を及ぼしていることがわかります。曾爾村地方創生総合戦略はこうした曾爾村が直面する危機意識を村民が共有し、地域の創業へ向け、今まで行ってきたことを基調に、新しい切り口で実践してみること(イノベーション)がポイントであり、村内全域でまずは社会実験として互いに一步を踏み出すための戦略です。全村をあげて地域における創業の場を作ることを目指すものです。曾爾村の活性化を図り地方創生を実現していくためには、地域の潜在能力を結集してイノベーションを創出し、新事業・新産業を起こすことが必要です。そのために、まずは村が創業の柱をつくること、地域課題の解消に努めること、また創業の社会実験を試み、気運を醸成し、担い手育成を図ることが重要です。曾爾村の地方創生戦略は地域イノベーションと称し、地域のネットワークの強化によるイノベーション創出環境の整備を目指すものです。

(2) 総合戦略の位置づけ

総合戦略は、喫緊の課題である人口減少問題に対応し、地方創生を成し遂げていくため、地域創業、個人起業の環境整備に全力をあげて構築します。村民が地域の担い手となり、地域が担い手を育てることにより、個人の起業を誘発し、起業マインドを持った移住者を呼びこむような連鎖をつくり、誇りある曾爾村を創生し、ひいてはその魅力により人口増加に寄与することが大きな目標です。このため、村全体が創業を目指すことと地域住民が社会実験を繰り返し、創業へと結びつける創業戦略を構築し、地域イノベーションに全力で取り組むことを、総合戦略の基本目標として位置づけ、今後5年間に取り組む基本的方向と具体的な施策をまとめたものです。

(3) 計画期間

曾爾村まち・ひと・しごと総合戦略は、「曾爾村人口ビジョン」が示す人口の将来展望を踏まえ、平成27年度(2015年)を初年度とする平成31年度までの今後5か年の戦略として策定する。時流の変化が激しい昨今の状況を踏まえ、村長、議会の求めに応じ、随時加筆改訂し、戦略性に富んだ柔軟性のある戦略を策定します。

(4) 戦略の構成と進行管理

一定の政策分野ごとに、戦略の「基本目標」を設定します。この基本目標の達成に

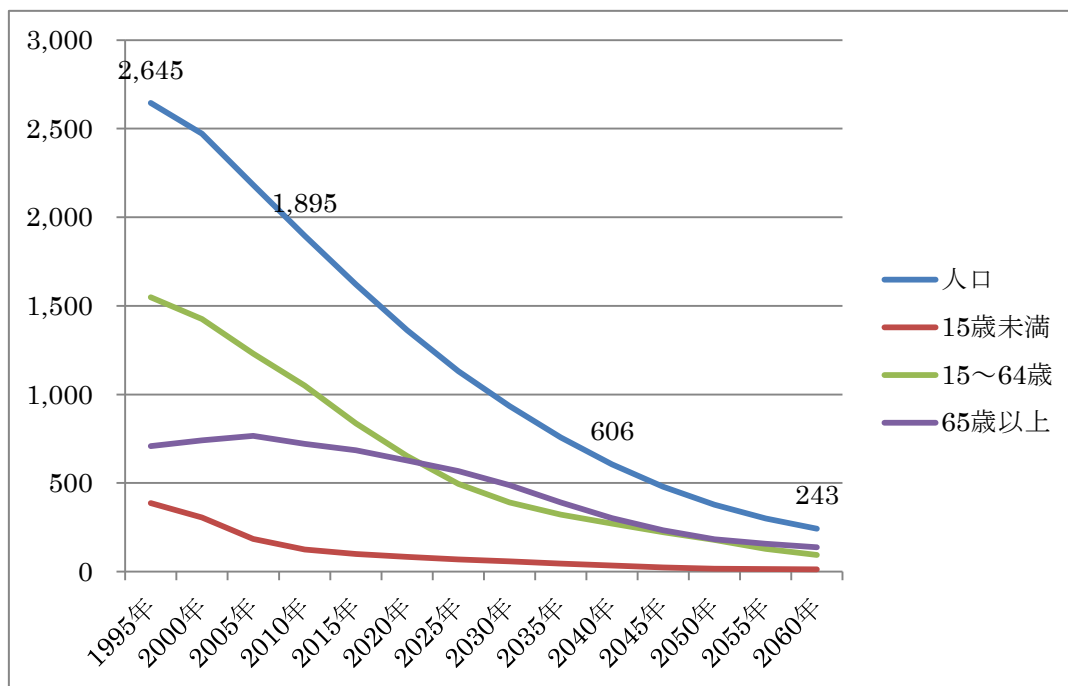
向けて推進する政策を「基本的方向」としてまとめ、政策の効果を客観的に検証するための「数値目標」を設定します。

また、基本戦略ごとに、計画期間のうちに実施する施策を「具体的な施策」として記載し、客観的な「重要業績評価指標（KPI：Key Performance Indicator）」を設定します。

数値目標と重要業績評価指標は、計画期間である 5 年間での達成水準を示すもので、実施した施策・事業の効果検証を行い、効果的かつ着実な戦略の推進を図っていくとともに、必要に応じて改訂を行うものとします。

2 曾爾村の状況と課題

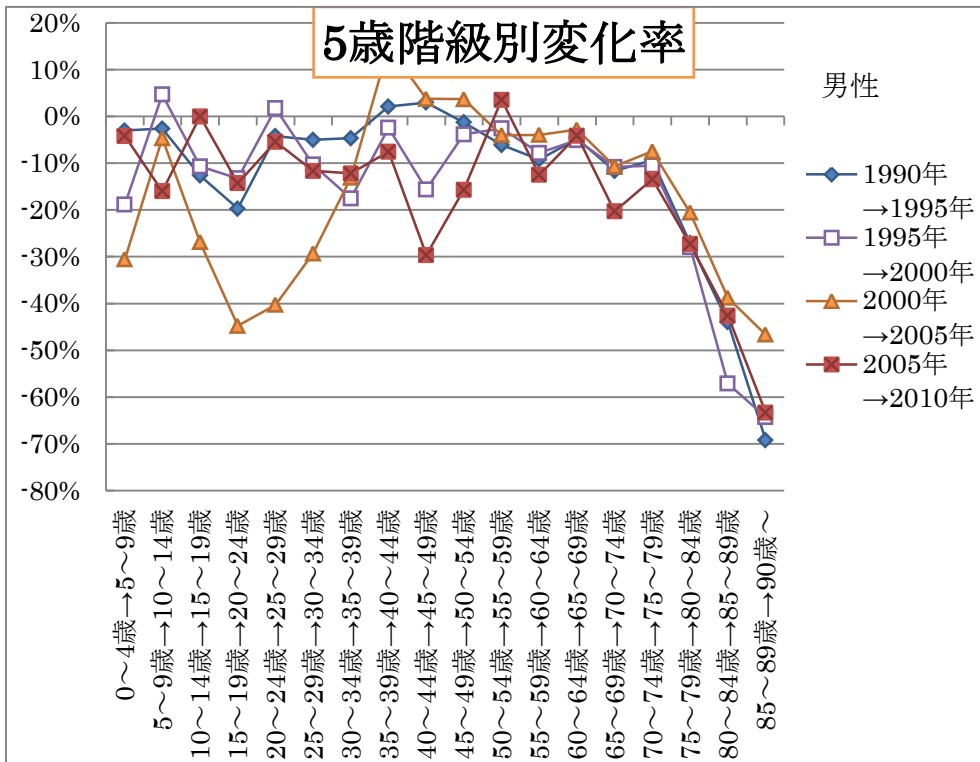
- 2040年に1000人を切る、2060年の300人程度と人口推計されます。
- 転出が多いのは高校卒業者、寄宿生活が必要な高校生を持つ家族が子どもの高校入学とともに入学する高校近隣に転居しており、人口減少に拍車をかけています。



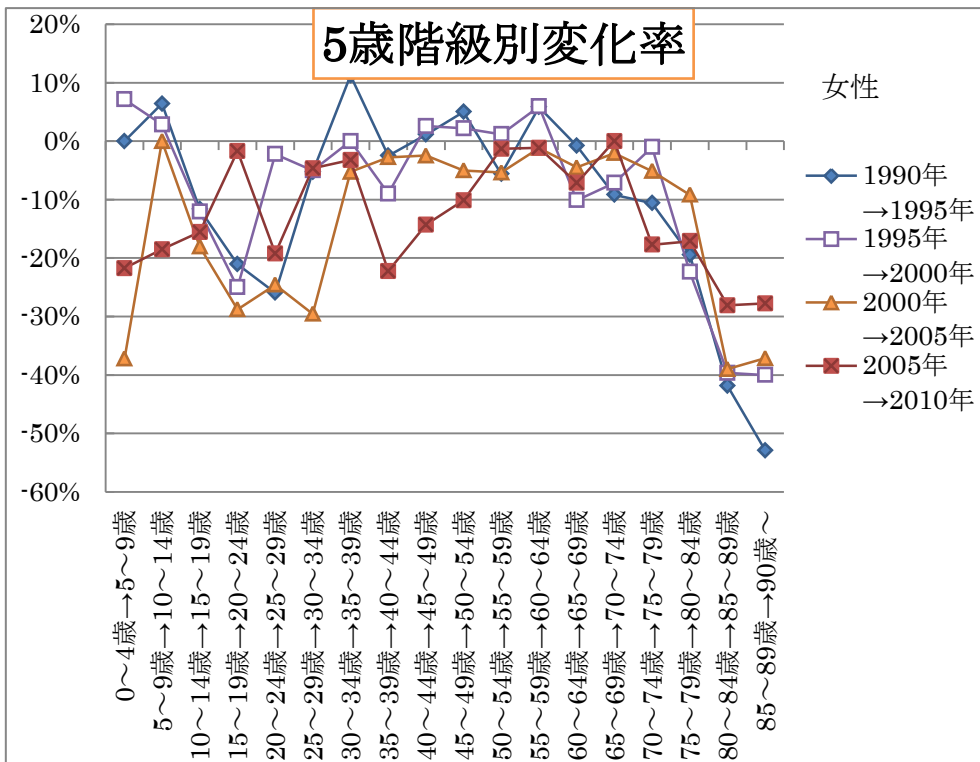
《図 2-1 曾爾村の人口推計》

表 2-1 曾爾村の人口推計

項目	2000年	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
人口	2,472	1,895	1,363	935	606	378	243
15歳未満	306	124	83	57	34	16	12
15～64歳	1,425	1,050	653	390	271	179	94
65歳以上	741	721	627	488	301	183	137
75歳以上	344	433	339	299	227	113	74
高齢化率	30.0%	38.0%	46.0%	52.2%	49.7%	48.4%	56.4%
後期高齢率	13.9%	22.8%	24.9%	32.0%	37.5%	29.9%	30.5%



《図 2-2 曾爾村の 5 歳階級別変化率（男性）》



《図 2-3 曾爾村の 5 歳階級別変化率（女性）》

表2-2 曾爾村の5歳階級別変化率（男性）

男性	1990年→ 1995年	1995年→ 2000年	2000年→ 2005年	2005年→ 2010年
0～4歳→5～9歳	-3%	-19%	-31%	-4%
5～9歳→10～14歳	-3%	5%	-5%	-16%
10～14歳→15～19歳	-13%	-11%	-27%	0%
15～19歳→20～24歳	-20%	-13%	-45%	-14%
20～24歳→25～29歳	-4%	2%	-40%	-5%
25～29歳→30～34歳	-5%	-10%	-29%	-12%
30～34歳→35～39歳	-5%	-18%	-13%	-12%
35～39歳→40～44歳	2%	-2%	15%	-8%
40～44歳→45～49歳	3%	-16%	4%	-30%
45～49歳→50～54歳	-1%	-4%	4%	-16%
50～54歳→55～59歳	-6%	-3%	-4%	4%
55～59歳→60～64歳	-9%	-8%	-4%	-13%
60～64歳→65～69歳	-5%	-5%	-3%	-4%
65～69歳→70～74歳	-12%	-11%	-11%	-20%
70～74歳→75～79歳	-9%	-11%	-7%	-13%
75～79歳→80～84歳	-27%	-28%	-21%	-27%
80～84歳→85～89歳	-44%	-57%	-39%	-43%
85～89歳→90歳～	-69%	-64%	-47%	-63%

表2-2 曾爾村の5歳階級別変化率（女性）

女性	1990年→ 1995年	1995年→ 2000年	2000年→ 2005年	2005年→ 2010年
0～4歳→5～9歳	0%	7%	-37%	-22%
5～9歳→10～14歳	6%	3%	0%	-19%
10～14歳→15～19歳	-12%	-12%	-18%	-16%
15～19歳→20～24歳	-21%	-25%	-29%	-2%
20～24歳→25～29歳	-26%	-2%	-25%	-19%
25～29歳→30～34歳	-5%	-5%	-30%	-5%
30～34歳→35～39歳	11%	0%	-5%	-3%
35～39歳→40～44歳	-3%	-9%	-3%	-22%
40～44歳→45～49歳	1%	3%	-2%	-14%
45～49歳→50～54歳	5%	2%	-5%	-10%
50～54歳→55～59歳	-6%	1%	-5%	-1%

55～59 歳→60～64 歳	6%	6%	-1%	-1%
60～64 歳→65～69 歳	-1%	-10%	-4%	-7%
65～69 歳→70～74 歳	-9%	-7%	-2%	0%
70～74 歳→75～79 歳	-11%	-1%	-5%	-18%
75～79 歳→80～84 歳	-19%	-22%	-9%	-17%
80～84 歳→85～89 歳	-42%	-40%	-39%	-28%
85～89 歳→90 歳～	-53%	-40%	-37%	-28%

3 曾爾村地域イノベーション創生戦略

曾爾村の強みは農業、林業、観光です。こうした強みを活かし、村が率先して地方創生に取り組むとともに地域住民が自らの特性を活かし地方創生戦略の取り組む体制を作ることが重要です。曾爾村と地域住民が多層的に相乗効果を発揮しながらしごとづくりに取り組むこと、日本で最も美しい村としての誇りを胸にこの村の地域力を維持し、活気ある村づくりに取り組むことが重要です。このために地域を担う人づくり、しごとづくりに集中して取り組むものです。創業のすべてが成功するものではありません。このため、村が率先して創業環境の整備を行うとともに、地域住民が地域課題を直視し、地域資源、人的資源等を活かした社会実験の取組み、その成果、教訓を共有し、その後の成長の方向性を探りながら、地域におけるしごとづくりの創造を図るものです。また、曾爾村は観光の潜在能力は優れていることから、時代のニーズを的確にキャッチし観光力の向上と景観の保全に努めるものです。

新たなビジネスが始まっています。手作り商品のネット販売、自宅や空き家への観光客の誘客、文筆業などはIT技術の普及により、定住形態をより多様な展開へとつなげており、こうした個人の情報配信による新たな産業革命が始まっています。曾爾村にもこうした兆しがあり、新たな職能を持った人材が定住しはじめています。こうした人材は大切な萌芽と言えましょう。こうした人材の集積は村の個性にもつながるでしょう。村には何もないと嘆くのではなく、楽しそうに活動をした方が、人が集まりやすいはずです。楽しく、元気に地方創生に取り組みしましょう。

○体系図

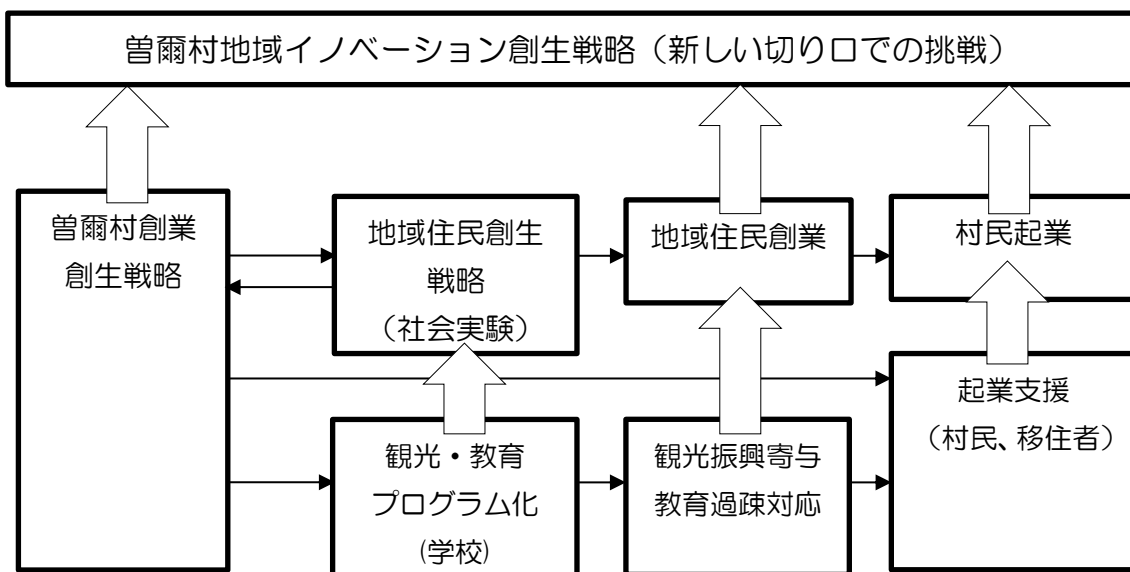


図2 曾爾村地域イノベーション創生戦略の体系

○曾爾村地域イノベーション創生戦略

	基本目標		具体的な施策
1	曾爾村創業創生戦略	1-1	施策1-1 農林業公社の設立 ① 農林業公社の設立 ② ブランド化、新産地化の推進 ③ 野菜直売所の推進 ④ 曾爾村特産品インターネットモール登録事業者数の増加 ⑤ 農地マッチング制度の創設 ⑥ 木造コテージ、農家レストランコンテナの設計、試作 ⑦ 木造コテージのモデルハウス化及びキット化とインターネット販売 ⑧ 薪燃料化施設整備 ⑨ 薪ボイラーの導入 ⑩ 薪ストーブの導入支援

		1-2	<p>施策1-2 観光戦略と景観保全</p> <p>① 観光情報発信基地整備</p> <p>② 林種転換などの里山再生支援</p>
		1-3	<p>施策1-3 人材誘致促進</p> <p>① 移住コンシェルジュ</p> <p>② 空き家の移住者への提供及び若者住宅の整備</p> <p>③ 地域おこし協力隊の積極的な導入</p>
		1-4	<p>施策1-4 特区制度の導入</p> <p>① どぶろく醸造所の建設支援</p>
		1-5	<p>施策1-5 住民等の憩いの場の創設</p> <p>① 空き家利活用したカフェ開設</p>
		2	<p>地域住民創生戦略 (社会実験)</p>
		2-2	<p>施策2-2 どぶろく学校</p> <p>① 観光ツーリズムの立案</p> <p>② どぶろく醸造所の設立(3か所程度)</p> <p>③ 観光案内所づくり観光振興組織設立</p> <p>④ 耕作放棄地等を活用した市民農園</p> <p>⑤ 地域おこし協力隊員の受入</p>
		2-3	<p>施策2-3 ゆず学校</p> <p>① 製造所整備</p> <p>② ゆず加工品の開発(ゆずピール、ゆず饅頭、ポン酢、ゆずジュレ)</p>
		2-4	<p>施策2-4 エゴマ学校</p> <p>① 耕作放棄地の再生とエゴマ等の新産地形成、エゴマ圧搾施設</p>
		2-5	<p>施策2-5 コメ学校</p> <p>① 米焼酎</p>

		2-6	施策2-8 名水学校 ① 名水商品化
3	村民起業	3-1	施策3-1 村民起業 ① 村民起業支援 ② 起業支援制度の創設
		3-2	施策3-2 移住者起業支援 ① 起業コンテスト実施 ② 起業支援制度の創設

○基本目標1 曾爾村創業創生戦略

数値目標	基準値	目標値 (H31)
雇用創造	0人 (H26)	200人
観光客数の増加	60万人 (H26)	66万人
創業法人数	0社 (H26)	3社
個人起業者数	0人 (H26)	5人
創業売上げ	0千円 (H26)	1億円
人口社会増	0人 (H26)	80人

《基本的方向》

○農林業公社の設立

人口減少により、農家数の減少も予測されます。農家数の減少により耕作放棄地が増加し、曾爾村が荒廃する姿は避ける必要があります。こうした悪循環を避けるためには、営農継承組織の創設と新規営農者の育成です。また、農家が収益性の高い事業として新規営農が進むためには、作物のブランド化推進が欠かせません。曾爾村の特産であるコメ、トマト、ハウレンソウのブランド化に尽力します。また各大字と協力して麻、漆、ゆず、菜の花、エゴマなどの作物の作付けを支援し、新産地形成による付加価値の高い農業を目指します。このため、村が中心となり農林業公社を設立し、村民とともに、各大字とともに農業による雇用創造を図ります。また、公社は耕作放棄地等の遊休農地の借上げ制度を創設します。

○林業支援強化

曾爾村の強みは美しい景観にあり、林業振興を図るとともに、針葉樹から広葉樹への林種転換による景観形成は大きな財産となるでしょう。これに並行して、美しい景観価値を提供できる商品開発を森林組合、製材所と連動して行います。曾爾村が薪燃料化施設を整備し、燃料の必要な温泉等の施設への薪ボイラーの導入により、地域エネルギーの循環の構築を支援します。

《具体的な施策と重要業績評価指標 (KPI) 》

施策1-1

農林業公社の設立

曾爾村が主体となり、奈良県農業協同組合と曾爾村森林組合と調整を図りながら農林業公社を設立します。公社はコメ、トマト、ホウレンソウなどのブランド化を図るとともに、麻、漆、エゴマなどの産地化支援を行います。また、農業の事業継承を図るため、耕作放棄地等の一括借り受けを行い、新規営農者等に農用地の提供、斡旋を行うためのマッチングを行います。コメのブランド化を図るためにコンテストへの出品を行うとともに優良なコメを作るための栽培管理方法を確立します。

曾爾村の強みは美しい景観にあり、その景観価値を提供できるようなコテージの商品化を図ります。A材、B材の活用による建築設計及び開発を支援し、観光入込客やお試し居住ができる機会の増大を図ります。また、C材にあっては曾爾村が薪燃料化施設を整備し、燃料の必要な温泉等の施設への薪ボイラーの導入により、地域エネルギーの循環の構築を支援します。農林業公社が中心となり、自伐林家の養成、森林組合の振興、製材所の再生、コテージ販売による林業の6次産業化の流れを作り、林業振興に寄与するとともに、観光振興の一翼を担います。

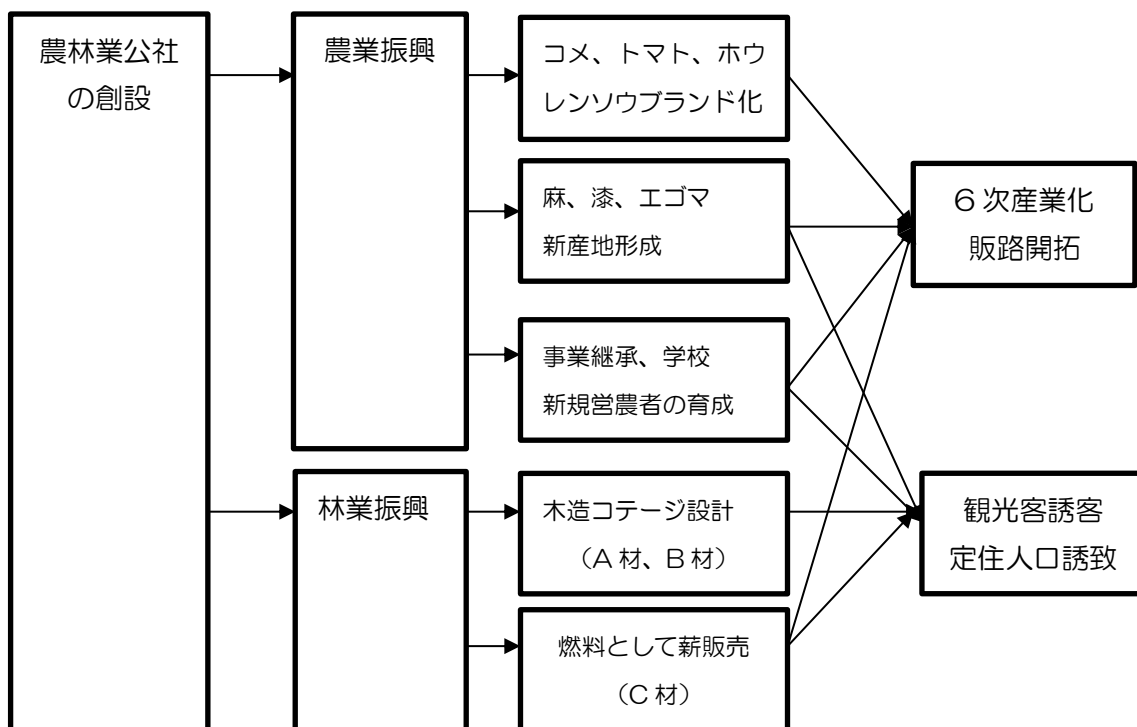


図3 農林業公社の機能

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
① 農林業公社の設立	0団体（H26）	1団体
② ブランド化、新産地化の推進	0種	3種
③ 農地マッチング制度の創設	0件（H26）	1件
④ 野菜直売所の推進	300万円（H26）	350万円
⑤ 曾爾村特産品インターネットモール登録事業者数	1事業者（H27）	20事業者
⑥ 木造コテージ、農家レストランコンテナの設計、試作	0件	2件
⑦ 木造コテージのモデルハウス化及びキット化とインターネット販売	0件	1件
⑧ 薪燃料化施設整備	0か所	1か所
⑨ 薪ボイラーの導入	0基	3基
⑩ 薪ストーブの導入支援	0基	20基

① 農林業公社の設立

《主な内容》

- ・農林業公社の設立
- ・新規営農者の受入、教育
- ・所有権、耕作権分離による大規模集約農業の展開の検討

② ブランド化、新産地化の推進

《主な内容》

- ・米、トマト、ホウレンソウのブランド化
- ・漆、麻、菜の花、エゴマ等の新産地化
- ・野菜直売所の売上増加
- ・曾爾村特産品インターネット販売の強化

③ 農地マッチング制度の創設

《主な内容》

- ・耕作放棄地、農地の一括借り受けによる農業の事業継承
- ・新規営農者への農地の貸し出し
- ・新規営農者への大字と連携した農業研修の実施

④ 木造コテージ、農家レストランコンテナの設計、試作

《主な内容》

- ・木造コテージ、農家レストランコンテナの設計、試作
- ・関係人口の増加に寄与する活動プログラムの実施

⑤ 木造コテージのモデルハウス化及びキット化とインターネット販売

《主な内容》

- ・木造コテージモデルハウス化
- ・木造コテージのキット化及びインターネット販売

⑥ 薪燃料化施設整備

《主な内容》

- ・温泉等への薪ボイラー導入にともなう人的支援
- ・薪貯蔵施設、薪割施設の整備
- ・石窯建設支援

⑦ 薪ボイラーの導入

《主な内容》

- ・温泉施設等への薪ボイラー導入
- ・住宅、コテージ等への薪ストーブの導入促進

施策1-2

観光戦略と景観保全

曾爾村には、年間約60万人の観光客が曾爾高原をはじめとする自然景観を求めて来訪しています。観光地周辺の林種転換及び自然景観保持、森林セラピー、トレッキングコースなどを推進し、また広域観光を推進することで新たな観光客の確保にも努め、観光入込客数の増加を図ります。こうした新たな取り組みを展開し情報を発信する基地の整備も同時に進めます。

また、景観特別区を定め電柱電線の埋設化を推進します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
① 観光情報発信基地整備	0か所（H26）	1か所
② 外国人観光客アクセス数	0アクセス	100アクセス
③ 林種転換などの里山再生支援	2か所（H26）	5か所

①観光情報発信基地整備

《主な内容》

- ・観光情報発信基地整備
- ・外国人観光客の誘客

②林種転換などの里山再生支援

《主な内容》

- ・広葉樹林等への林種転換及び景観づくり
- ・自伐林家の育成

施策1-3

人材誘致促進

人口減少を食い止めるためには移住の促進を図る必要があります。特に曽爾村では農林業や観光による定住を図る移住者の転入促進を図ることにより、地方創生を図ります。このためには移住コンシェルジュによる移住希望者への迅速な空き家紹介などを進めます。また、地域おこし協力隊の積極的な導入と協力隊終了後の定住へ向けた支援体制の確立を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
① 移住コンシェルジュ	0団体	2団体
② 空き家登録数	3件	10件
③ 空き家相談数	3件	10件
④ 空き家の移住者への提供及び若者住宅の整備	18戸	35戸
⑤ 地域おこし協力隊の積極的な導入	4人	16人

① 移住コンシェルジュ

《主な内容》

- ・移住コンシェルジュ活用による移住者の誘致
- ・移住者への情報発信
- ・特に文筆業、IT技術者等の技術を持った移住者の誘致
- ・村内起業を目指す移住希望者のコンテストによる誘致

② 空き家の移住者への提供及び若者住宅の整備

《主な内容》

- ・空き家活用(シェアハウス等)と移住者住宅の整備

③ 地域おこし協力隊の積極的な導入

《主な内容》

- ・地域おこし協力隊の積極的な導入を図り、定住へ向けた支援を強化

施策1-4

特区制度の導入

酒類の規制改革特区を申請し、特産の米によるどぶろく特区を申請する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
① どぶろく醸造所の建設支援	0か所	2か所

① どぶろく醸造所の建設支援

《主な内容》

- ・農家民宿、農家レストラン起業化支援
- ・どぶろく製造許可申請支援

施策1-5

住民等の憩いの場の創設

住民又は観光客が憩いの場として空き家を活用してカフェなどの起業支援を行います。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
① 空き家利活用したカフェ開設	1軒	2軒

① 空き家利活用したカフェ開設

《主な内容》

- ・小さな拠点
- ・空き家利活用したカフェ開設
- ・子育て支援センターとカフェの連動

○基本目標2 地域住民創生戦略（社会実験）

数値目標	基準値	目標値（H31）
担い手の育成	0人（H26）	10人
新たに開発した商品数	0個（H26）	10個
新たに開発した教育プログラム数	0本（H26）	6本

《基本的方向》

地域住民が中心となり、地域が持っている地域資源、人的資源を活用し商品開発や観光振興に資する社会実験を実施します。また、教育過疎の解消や観光振興を図るために教育・観光プログラムを実践します。これらの社会実験の動向や評価は地域住民が共有し、今後そのいくつかは地域における創業、起業に向けられるよう努力します。

地域住民が中心となって学校を開設し役割分担して観光や新産地形成、農産加工の社会実験を行い、全村的にその経験やノウハウを活かし起業の種を拡散します。

表 2-1 地域住民が社会実験を行う学校

学校	学校
メダカ学校	エゴマ学校
どぶろく学校	コメ学校
ゆず学校	名水学校



学校が社会実験で創業の種を蒔き、全村へ拡散します

《具体的な施策と重要業績評価指標 (KPI)》

施策 2-1

メダカ学校

曾爾村の最西端に位置する山粕地域は、メダカ街道として有名で伊勢本街道の宿場の歴史もあり、こうした活動も含む地域観光の推進をめだか学校とし、対流・交流活動を進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
① 対流・交流プログラムの立案・実施と交流の場の整備	0カ所 (H26)	1カ所

① 対流・交流プログラムの立案・実施と交流の場の整備

《主な内容》

- ・メダカ学校を中心とした対流・交流プログラムの整備と交流の場の整備

施策 2-2

どぶろく学校

掛地域は交通流動の結節点にあり観光ツーリズムによる受入による雇用創造を目指します。このため、観光振興組織を設立し、耕作放棄地の市民農園化、特産の米を活用したどぶろく醸造所の集積立地を図り観光客の受入を行います。また、農家レストランは木製コンテナにより整備し、農家民宿を行うために空き家を中心に整備します。転入者を増やすため空き家の活用を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
① 観光ツーリズムの立案	0本（H26）	3本
② どぶろく醸造所の設立	0か所（H26）	3か所
③ 観光案内所づくり観光振興組織設立	0団体	1団体
④ 耕作放棄地等を活用した市民農園	0か所	1か所
⑤ 地域おこし協力隊員の受入	0人（H26）	1人

① 観光ツーリズムの立案

《主な内容》

- ・酒米作りから始めるとどぶろく造りの対流・交流プログラムの立案
- ・市民農園を活用した酒米づくり

② どぶろく醸造所の設立（3か所程度）

《主な内容》

- ・どぶろく醸造所の設立
- ・どぶろくまつりの実施

③ 観光案内所づくり観光振興組織設立

《主な内容》

- ・観光案内所設立
- ・観光振興組織の設立

④ 耕作放棄地等を活用した市民農園

《主な内容》

- ・市民農園の整備

施策2-3

ゆず学校

小長尾地域はゆずの加工品づくりを進めてきました。今後、ゆず加工品の製造所整備を進めます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
① ゆず加工品製造所整備	0か所（H26）	1か所
② ゆず加工品の開発（ゆずピール、ゆず饅頭、ポン酢、ゆずジュレ）	0個（H26）	4個

① ゆず加工品製造所整備

《主な内容》

- ・ユズ加工品製造所整備

② ゆず加工品の開発（ゆずピール、ゆず饅頭、ポン酢、ゆずジュレ）

《主な内容》

- ・ゆずピール、ゆず饅頭、ポン酢、ゆずジュレ等の商品開発支援
- ・販路開拓支援

施策 2-4

エゴマ学校

塩井地域は耕作放棄地が増えており、この解消策としてエゴマ栽培及び圧搾施設の整備を行います。また長期的展望となるが将来の産地化に向け、漆栽培を行います。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
①耕作放棄地の再生とエゴマ等の新産地形成、エゴマ圧搾施設	0か所	1か所

① 耕作放棄地の再生とエゴマ等の新産地形成、エゴマ圧搾施設

《主な内容》

- ・耕作放棄地の再生とエゴマ等の新産地形成
- ・エゴマ圧搾施設

施策 2-5

コメ学校

葛地域は農林業公社と連携を図り中米を活用した米焼酎製造所の建設を目指し人材誘致に努めます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
① 米焼酎	0か所	1か所

① 米焼酎

《主な内容》

- ・米焼酎製造免許の申請支援
- ・販路開拓支援

施策 2-6

名水学校

太良路地域は名水百選に選ばれた湧水群を背景に名水商品化を行う。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
① 名水商品化	0カ所	1カ所

- ① 名水商品化
- ・名水飲料工場の整備

○基本目標3 村民起業

数値目標	基準値	目標値 (H31)
村民起業家数	0人 (H26)	5人
移住起業家数	0人 (H26)	5人

《基本的方向》

地域住民が中心となり、地域が持っている地域資源、人的資源を活用し商品開発や観光振興に資する社会実験を実施します。また、教育過疎の解消や観光振興を図るために教育・観光プログラムを実践します。これらの社会実験の動向や評価は地域住民が共有し、今後そのいくつかは地域における創業、起業に向けられるよう努力します。

《具体的な施策と重要業績評価指標 (KPI)》

施策3-1

村民起業

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
① 村民に対する起業支援	0戸 (H26)	5戸
② 起業支援制度の創設	0制度 (H26)	1制度

① 村民に対する起業支援

《主な内容》

- ・起業勉強会の実施

② 起業支援制度の創設

《主な内容》

- ・起業支援制度の創設

施策3-2

移住者起業支援

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
① 移住者起業者数	0人（H26）	3人
② 移住者起業支援制度の創設	0制度（H26）	1制度

① 村民に対する起業支援

《主な内容》

- ・ 起業希望者コンテストの実施

② 起業支援制度の創設

《主な内容》

- ・ 移住者起業支援制度の創設